

## 万里一空

先月28日、日本相撲協会は関脇琴奨菊の大関昇進を決め、その後、佐渡ヶ嶽部屋で伝達式が行われました。

琴奨菊は、その席で「万里一空」という言葉を引用し、大関として「目標を見失わずに努力精進していきます」と口上を述べています。

この「万里一空」は、剣豪・宮本武蔵の兵法書「五輪書」から引用したそうで、その意味するところは、常に冷静な気持ちを保って事に当たるべきであるという教えですが、現在では、一つの真理や目標に向かって精進し続けることが大事であるという意味で使われることも多いといわれています。

宮本武蔵という人は、江戸時代初期に活躍した二天一流の剣豪で、60数回にわたる勝負で一度も負けたことがないといわれています。大関という地位もまた、負けることが許されないという大変厳しいものであり、琴奨菊が剣豪宮本武蔵の言葉を引用したということは、並々ならぬ決意の表れともいえるでしょう。

大相撲は、かつては国技として国民的人気を博してきました。私も、最近ではテレビ番組でも相撲を見ることは殆どありませんが、子供の頃はテレビに釘づけで観戦していたものです。しかし、最近では、賭博や暴力事件など相次ぐ不祥事により人気が低迷しています。琴奨菊には、大変厳しい相撲界の立て直しにも力を発揮して欲しいものです。

何より、日本人力士としては07年の名古屋場所後に昇進した琴光喜以来の大関ということですから、日本人力士の凋落ぶりは目を覆うものがあります。平成15年までは、日本人力士が大いに活躍していましたが、16年以降になると日本人力士の優勝は僅かに栃東と魁皇がそれぞれ1回、後は、朝青龍、白鳳、琴欧州、日馬富士と外国人力士の名が続きます。そろそろ、日本人力士にも優勝してもらいたいと思っているのは私だけではないでしょう。

柳川市の後援会は、横綱土俵入り用の三つそろいの化粧まわしを贈呈する計画とのことです。少し気が早いように感じますが、それだけ、琴奨菊に寄せる期待が大きいということでもあります。

彼は、「強く愛される大関になりたい」とのことですが、是非、横綱を目指し、記憶にも記録にも残る大関として活躍して欲しいものです。

(塾頭 吉田 洋一)